

稲作管理特報

今年の稲の生育は、平年と比べてやや早く、茎数は多めとなっています。

米の品質・収量の向上には「根づくり」が重要です。適期の中干し開始と中干し後の間断かん水で根の健全化を図りましょう。

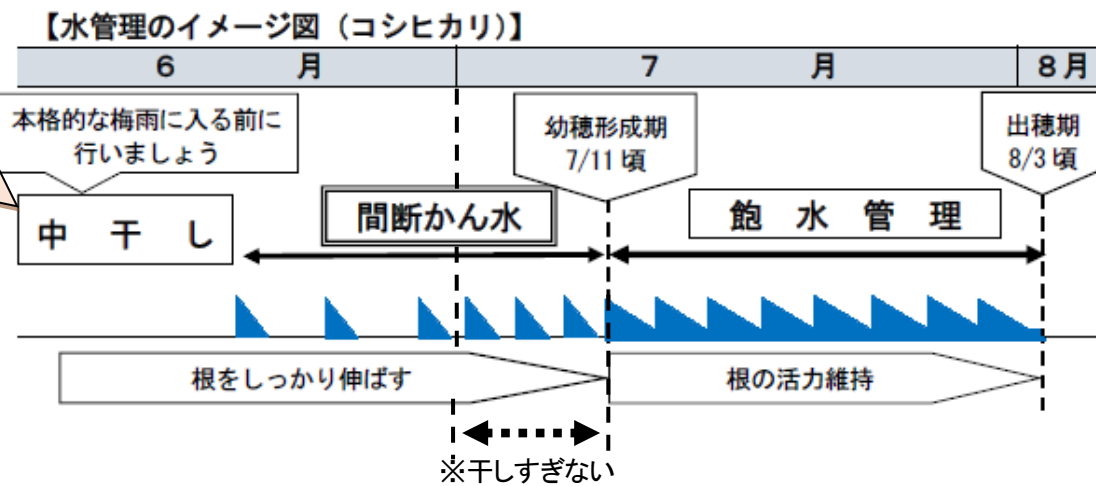
【コシヒカリの生育状況 6月2日現在（7ヶ所）】

年次	田植月日	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色
			本/株	本/㎡		
R8	5/12	29.4	11.3	242	6.5	4.1
平年	5/12	27.5	7.9	165	5.9	4.1

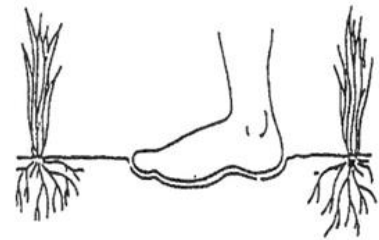
1 「溝掘り」と「中干し」の実施と水管理

※中干し前に!!

【溝掘り実施】
「溝掘り」で効率的な中干し → しっかりと根に酸素を供給する環境を整えましょう。



- ・中干しは田植え後4週間までに開始し、本格的な梅雨の前にしっかりと干し上げましょう。中干しの開始が遅れると根の伸長が不十分となり、米の品質等低下につながります。
- ・中干しは小さなひび割れが入り、足の跡がつく程度まで干しましょう。
- ・中干し後から幼穂形成期までは、1日湛水、2～3日落水の「間断かん水」で、根に酸素を与え、根の伸長を促しましょう。
(※目安は足跡の深さ3cm以内に地固め)
- ・出穂1か月前頃から基肥一発肥料の穂肥成分が溶出します。コシヒカリでは7月に入ったら田を強く干さないように注意しましょう。



【中干し終了頃のほ場の状態】

3 中・後期除草剤の散布

中干し後に雑草の発生が多い場合は、草種と葉齢に合わせて、遅れずに除草剤を散布しましょう。散布前に登録内容を確認しましょう。

雑草の状況	農薬名	散布時期	10a当たり散布量	使用回数
ノビエが残った場合	トドメMF1キロ粒剤 (湛水散布)	田植後14日～ノビエ5葉期 但し、収穫50日前まで	1kg	3回以内
ノビエや広葉雑草が残った場合	アクシズMX1キロ粒剤 (湛水散布)	田植後7日～ノビエ4葉期 但し、収穫45日前まで	1kg	1回
	レプラス1キロ粒剤 (湛水散布)	田植後14日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで	1kg	1回
	レプラスギアジャンボ (湛水散布)	田植後14日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで	パック10個 (300g)	1回
	ロイヤント乳剤 ※1 (落水散布またはごく浅い湛水散布)	田植後20日～ノビエ5葉期 但し、収穫45日前まで	200mL 希釈水量 25～100L	2回以内
	トドメバSMF液剤 (落水散布またはごく浅い湛水散布)	田植後15日～ノビエ6葉期 但し、収穫50日前まで	1000mL 希釈水量 70～100L	2回以内
広葉雑草が残った場合	バサグラン粒剤 ※2 (落水散布またはごく浅い湛水散布)	田植後15日～ 収穫45日前まで	3～4kg	1回
	パイスコープ1キロ粒剤 (湛水散布またはごく浅い湛水散布)	田植後14～60日 但し、収穫45日前まで	1kg	1回

- ※1 ロイヤント乳剤は、土壌水分が少ないと効果が十分発揮されない場合があるため、落水状態で散布した場合は、散布後3日以内に入水しましょう。また、散布する際は、周囲の大豆ほ場に飛散しないよう特に注意しましょう。
- ※2 バサグラン粒剤は、2日以上晴れ間が続く日を選んで散布し、散布後3～4日は入水しないでください。

4 カメムシの発生防止

斑点米カメムシ類の発生は平年より早く、発生頭数も極めて多い状況です。斑点米カメムシ類を増殖させないよう雑草地や畦畔の草刈りを徹底しましょう。

～草刈り作業時の留意点～



例年、草刈り作業時における農作業事故が多発しています。草刈り作業を行う際は、周囲の安全を確認し、怪我や転倒等に注意しましょう。

カメムシはすでに雑草地に生息しています!

令和8年度水田畦畔等草刈り運動期間
 運動期間 6/26(金)～7/5(日)
 一斉草刈り日 6/27(土)～28(日)

多発する事故の例	対処方法
刈り刃への接触・巻き込まれによる事故	ヘルメット、ゴーグル・フェイスガード・すねあてなどの防護の徹底と飛散物カバーを外さないようにしましょう。
飛散物による事故・キックバックによる事故	
刈りに草などが詰まった際の事故	確実にエンジンを切って取り除きましょう。

※熱中症対策として、こまめに休憩を取り、水分補給を行いましょう。

★JAみな穂では営農情報を配信しています。
 ・営農メール: 水稻栽培情報、気象・災害情報
 ・LINE: 稲作管理特報などの各種特報
 ※右の二次元コードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。

営農メール



LINE



2 「エスアイ加里らくだ」の施用

管内の多くのほ場で「ケイ酸」や「カリ」が不足しています。「ケイ酸」や「カリ」の施用により、稲の受光体勢が良くなり、登熟が向上することで白未熟粒の発生抑制に繋がります。

「エスアイ加里らくだ」を積極的に施用しましょう。

施用時期：6月20～25日頃 施用量：15kg/10a

